

早稲田大学 文化構想学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	一文・二文再編による新学部だが、去年の一文と比較するとかなり難しく、とくに大問〔IX〕の文化史は厳しい。一文にあった小論述はなかった。全体を通じて「人の移動」というテーマが設定されている。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔I〕	古代ギリシア	設問2の正誤判定は易しい。	標準
〔II〕	中世ヨーロッパに侵入した諸民族	設問3のセルビア人の定着地は「北部」ではなく「西南」が正しい。細かいようだが、今年の「セルビア」出題は大方で予想されていたこと。	一部難
〔III〕	内陸アジアの遊牧民	本文がやや不親切な構成となっており、空欄補充には迷わされる。しかし、「トルコ」に注目してCは「セルジューク朝」と答える。設問2Bの正誤判定も全文が微妙な内容で答えにくい。	難
〔IV〕	イスラーム世界の旅と文化交流	ここの正誤判定はそう難しくない。設問5の正解「トレド」は昨年、一文で出題されている。	標準
〔V〕	中国から海外移民	設問1の1793年当時の中国人口3億3千万は厳しい。全て3千万がついているので、1億・3億・6億・9億の四択だが、9億は問題外。戦前一口に「四億の民」と称したのは古い話。現代の高校生には酷な問である。社会進化論はハーバート＝スペンサーはよくエドモンド＝スペンサー(『仙女王』)と語群でペアを組む人物。進化論に目がくらんでダーウィンを選ばないこと。	一部難
〔VI〕	アフリカ人の拡大	設問2の奴隷貿易廃止運動はウィルバー＝フォース。オコンネルは反穀物法同盟。2007年は奴隷貿易の廃止から200年で、06年中には関連の動きもあった。この点、警戒していた受験生は内心快哉を叫んだことだろう。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
〔VII〕	19世紀ヨーロッパにおける人の移動	問5の北欧は意表をついた問題。他ではあまり類題を見ない。それ以外は一般的内容。	標準
〔VIII〕	現代の人の移動	全て答えやすい内容。	易
〔IX〕	日本文化の西洋への影響	10題のうち、前半5題はとくに問題になるところはないが、「月と6ペンス」のモデルがゴーガンから難しくなる。設問8の「アール=ヌーボー」は美術マニアなら楽勝。	やや難

〔総合コメント〕

全体に一昔前の早稲田らしさを漂わせる問題となっている。10年・20年前の政経世界史の正誤と難しさの感覚がよく似ている。まともな受験勉強をつみ重ねれば、しっかり得点できるという世界ではない。高得点を狙うには相当のしぶとさと、日常的に執着心をもった学習を心がけなければならない。しつこく、しつこく、こんなところが問われるかも、いやもしかしたらこうかも、といった感覚が必要。また、セルビアは去年モンテネグロと分離して話題を呼んだし、奴隷貿易廃止は200年ということで、アフリカ諸国から賠償請求の動きがあり、新聞で取り上げられた。こういう時宜にかなった話題は今後も出題が予想されるので十分対策をとりたい。今回は文字だけの問題だったが、かつての政経に先祖がえりすると仮定すると、いやらしい地図問題も要注意である。正誤判定の文化史は継続して出題される可能性が高い。